

機能性消化管疾患:治療をめぐる

司会 兵庫医科大学内科(上部消化管科) 三輪 洋人
東北大学大学院医学系研究科行動医学 福土 審

我が国においても消化器分野の医師や研究者の消化管機能性疾患への関心が高まっている。さらに近年の生命科学の目覚ましい発展を背景にしてこの疾患の病態生理の解明が急速に進みつつある。現在では酸分泌過多、運動機能異常、消化管知覚過敏、社会心理的因子、炎症、消化管ホルモン、遺伝子などが多くの因子が病態に関与していることが明らかになっている。しかし実際にはこれらが複雑に絡み合って病態を形成していることから、臨床の場では治療に難渋することも多く、また治療指針に対するコンセンサスが得られているわけではない。そこで、本シンポジウムでは治療に焦点をあてて意見を交わしたい。治療指針の構築、新たな治療法の開発、既知の治療法に対する臨床的エビデンスや基礎的裏付けなどから我が国での治療の実態調査まで、治療に関する意欲的な演題を幅広く募集したい。